

在スロバキア日本国大使館

政治・経済月報（2020年8月）

目次

新型コロナウイルス

- ◆ 8月31日現在の感染者情報 2
- ◆ 7月の新規感染者の内訳 2
- ◆ 過去最多の新規感染者数 2
- ◆ 民間機離着陸禁止措置の全廃 2
- ◆ 9月1日以降の検疫免除対象国及び入国者に対する新たな措置 2
- ◆ 9月1日以降のイベント開催規制の強化、学校におけるマスク着用義務 3

内政

- ◆ フェイスブックによる極右政党L SNS党首の投稿削除 3

外政

- ◆ 広島原爆投下75周年：チャプトヴァー大統領のビデオメッセージ 4
- ◆ 広島原爆投下75周年：スロバキア外務・欧州問題省のステートメント 5
- ◆ スロバキア及びロシアによる外交官の国外追放 5
- ◆ ベラルーシ大統領選挙に対するスロバキアの反応等 6
- ◆ ベルギーにおける警察官によるスロバキア人暴行致死疑惑 6

社会

- ◆ スロバキアの人口動態予測 7

経済

- ◆ 最新の主要経済指標 7
- ◆ 独ポルシェ社による車体工場建設の検討 8
- ◆ 7月の失業手当の申請件数 8
- ◆ 政府による企業支援状況 9

別添：主要経済指標

※ 本月報は公開情報を在スロバキア日本国大使館がとりまとめたものです。

新型コロナウイルス

◆8月31日現在の感染者情報

- (1) 累積感染者数3989名（前日比+72名。31日の検査数は2763件。同日までの累積検査数は33万7695件）
- (2) 同死者数33名（前日比+0名）
- (3) 同治癒者数2478名（前日比+101名）

◆7月の新規感染者の内訳（6日付公衆衛生局プレスリリース）

7月1日～31日に確認された新規感染者数は計650名。そのうち、395名（61%）が無症状者。250名（38.5%）が、国外からの帰国者・入国者（ウクライナ81名、セルビア65名、チェコ48名、英国19名、ルーマニア7名、アフガニスタン7名、クロアチア6名、米国5名等）。

◆過去最多の新規感染者数（21日付プラウダ紙）

20日、スロバキアで過去最多となる123名の新規感染者が確認された（これまでの最多は4月15日の114名）。同日に確認された新規感染者の中には、ブラチスラバのフォルクスワーゲン工場、トルナバのマクドナルド、ヤスロウスケー・ポフニツェ原発の従業員も含まれている。

ブラチスラバ県で確認された41名の新規感染者のうち18名は、ブラチスラバ市ジェヴィーンスカ・ノヴァー・ヴェス区に所在する警察学校の生徒及び教員である。また、ブラチスラバ市議会議員1名の感染も確認された。

（注：9月3日、過去最多となる137名の新規感染者が確認された。）

◆民間機離着陸禁止措置の全廃（25日付内務省プレスリリース）

25日、スロバキア政府の中央危機管理チームは、9月7日午前0時1分より、民間機離着陸禁止措置を全廃する旨承認した。同措置は、現時点で、35か国・地域以外の国とスロバキアを結ぶ民間機を対象に導入されている。ブルンツコヴァー副交通・建設相は、同措置全廃の理由として、「感染のリスクが高い国から、感染リスクの低い国を経由してスロバキアに入国するケースが見られており、同措置の効果は限定的になっている。また、同措置の継続は、スロバキア経済に負の影響を与える」と述べた。

◆9月1日以降の検疫免除対象国及び入国者に対する新たな措置（28日付公衆衛生局プレスリリース）

- (1) 9月1日午前7時より、スロバキアに入国する全ての者は、直近14日間に指定された26か国（豪州、キプロス、チェコ、中国、デンマーク、エス

トニア、フィンランド、ギリシャ、アイルランド、アイスランド、日本、韓国、リヒテンシュタイン、リトアニア、ラトビア、ハンガリー、モナコ、ドイツ、ノルウェー、ニュージーランド、ポーランド、オーストリア、スロベニア、英国、スイス、イタリア) 以外のEU諸国に滞在していた場合、PCR検査で陰性が証明されるまでの期間、又は感染症状が無い場合は10日間、同居する者も含めて自主隔離を実施しなければならない。PCR検査は、スロバキア入国後5日経過してから実施する。

(2) 9月1日午前7時より、スロバキアに入国する全ての者は、直近14日間に指定された上記26か国以外の非EU諸国に滞在していた場合、PCR検査で陰性が証明されるまでの期間、同居する者も含めて自主隔離を実施しなければならない。PCR検査は、スロバキア入国後5日経過してから実施する。

(3) 9月1日午前7時より、スロバキアに入国する全ての者は、ウクライナ国境から入国する場合、指定のウェブサイト

(<http://korona.gov.sk/ehranica>)で登録を済ませたことを、国境でスロバキア警察に証明する必要がある。

(4) 上記(1)～(3)の措置が適用される全てのスロバキアへの入国者は、かかりつけの医師及び最寄りの公衆衛生事務所に対して、入国(帰国)した旨を遅滞なく電話又はメールで報告しなければならない。かかりつけの医師がスロバキアにいない者は、各県の地元の医師に報告する必要がある。

◆9月1日以降のイベント開催規制の強化、学校におけるマスク着用義務(28日付公衆衛生局プレスリリース)

9月1日より、全ての個人、事業主及び法人による大規模なスポーツ、文化、社会等の1000名を超える人数が同時に集まる屋外イベント及び500名を超える人数が同時に集まる屋内イベントの開催が禁止される。イベント参加者全員が、12時間以内に発行された陰性証明書をイベント開始時に提示する場合、上記開催禁止措置の例外とする。大規模なイベントを開催する場合、定められた衛生基準(マスク着用義務等)を遵守すること。

9月2日から14日まで、初等学校後期課程(注:概ね日本の中学校に相当)及び中等学校(注:日本の高校に相当)の生徒は、マスク着用が義務化される。

内 政

◆フェイスブックによる極右政党LSNS党首の投稿削除(18日付 Symsite)

14日、フェイスブックは、極右政党「我々スロバキア(LSNS)」のコ

トレバ党首によって投稿された動画を削除した。コトレバ党首は動画の中で、「でっちあげられたパンデミックが、人々の自由を剥奪している」と発言していた。フェイスブックがスロバキアの政治家の投稿を削除するのは初めてのことである。コトレバ党首は、ワクチンや5Gネットワークに関する陰謀論を頻繁に拡散している。

7月、コトレバ党首は、フェイスブックの新アカウントを登録したばかりであるが、既にコトレバ党首のフェイスブックは、ペレグリニ前首相、マトヴィチ首相に次いで3番目に大きな人気を集めている。7月最終週の上記のコトレバ党首のフェイスブックの投稿には、2万件以上の「いいね」及びコメント等が寄せられた。コトレバ党首のフェイスブックの旧アカウントは、過激主義的なコメントを掲載したため、削除されていた。

外 政

◆広島原爆投下75周年：チャプトヴァー大統領のビデオメッセージ（6日）

6日、チャプトヴァー大統領は、広島原爆投下75周年に際し、以下のビデオメッセージ（英語）を自身のツイッターで公表した。

「親愛なる広島市民の皆様、親愛なる被爆者の皆様、今日、我々は平和記念日を記念します。この日は、人類が二度と原子力の恐怖を経験するべきではないことを我々に想起させます。私は、1945年8月6日の原爆投下の無事の市民とともにあります。犠牲者の家族に対し哀悼の意を表するとともに、被爆した生存者に対して同情の念を表します。

平和記念日は、世界に対して、永續する平和を求める強いメッセージを送ります。平和記念日はまた、我々がまだ核兵器から逃れられていないことを、我々に想起します。今日、我々は、核エネルギーは平和目的のためだけに用いられるべきであることに合意します。

私は、この問題に関するリーダーシップにつき日本を賞賛します。長年、国際原子力機関（IAEA）前事務局長であった天野之弥氏によって個人的に代表されてきました。彼は、人類の利益となる、より安全な世界及び核エネルギーの平和利用に対する日本のコミットメントを体現していました。

親愛なる広島市民の皆様、親愛なる被爆者の皆様、親愛なる日本国民の皆様、スロバキアは、この日、あなた方とともにいます。私は、あなた方に、令和という新しい時代に長く永續する平和と調和した繁栄が来ることを心からお祈りします。

◆広島原爆投下75周年：スロバキア外務・欧州問題省のステートメント（6日付外務・欧州問題省プレスリリース）

スロバキア外務・欧州問題省は、広島原爆投下75周年に際し、以下のステートメントを発出した。

「今日、世界は、長崎への原爆投下へと続く日本の広島市への原爆投下という悲劇的な周年を記念する。これら2つの出来事は、第二次世界大戦の終結に繋がったが、その衝撃は、多大なる苦しみをもたらし、この種の兵器の恐ろしい破壊性を証明した。これらは、現在において鮮明な記憶となっており、核兵器のない世界を実現する我々の目的を強化する。これらの努力の中心となるのは、核兵器不拡散条約（NPT）を中核とする既存の軍縮構造の維持と更なる強化である。核兵器の拡散を妨げるのは、我々が今年50周年を記念した核兵器不拡散条約（NPT）である。この条約は、国際的緊張の減少、国家間の相互信頼の構築及び強化に貢献する。

スロバキア共和国は、核兵器不拡散条約（NPT）の支持及びその3つの柱である核軍縮、核不拡散及び核エネルギーの平和的利用を確認する。また、ウィーンに所在し、NPTの実行プロセス及び核エネルギーの平和的利用の監督において重要な役割を果たす国際原子力機関（IAEA）への支持も表明する。」

◆スロバキア及びロシアによる外交官の国外追放

【10日付TASR通信】

10日、スロバキアは、露諜報機関によるスパイ活動に関与した疑いで、在スロバキア露大使館の3名的外交官を追放する旨決定した。トマガ外務・欧州問題省報道官は、「スロバキアの諜報機関によると、当該外交官は外交関係に関するウィーン条約に違反する活動を行った」と述べるとともに、在露サンクトペテルブルク・スロバキア総領事館で発給されたビザが悪用された事案

（注：昨年ドイツで発生したチェチェン系ジョージア人の暗殺事件に関与したと見られるロシア人が、在露サンクトペテルブルク・スロバキア総領事館で発給されたビザを用いてポーランド経由でドイツに入国していた）に言及した。

【9月2日付プラウダ紙】

31日、ロシア外務省は、スロバキアによるロシア人外交官の国外追放への対抗措置として、在露スロバキア大使館の外交官3名の国外追放を決定した。コルチョク外務・欧州問題相は、ロシアによるスロバキア人外交官の追放に関し、「ロシアの措置は予期されていたことではあるが、適切なものではない。ロシアに派遣されているスロバキア人外交官は、ロシアとの二国間関係及び協力強化に専念している」と述べた。

◆ベラルーシ大統領選挙に対するスロバキアの反応等

【スロバキア外務・欧州問題省ステートメント（10日付）】

スロバキア外務・欧州問題省は、平和的に意見を表明したベラルーシ市民の拘束及び独立したジャーナリストの拘束を強く非難する。国際社会の要求にも関わらず抗議者に対する治安部隊による暴力の行使により、特別な懸念が提起された。スロバキアは、基本的人権及び自由、特に言論の自由や集会の自由を行使する市民の正当な権利に対する政府権力の暴力を拒否する。

【駐スロバキア・ベラルーシ大使による反政府デモへの支持表明（17日付及び19日付スメ紙、24日付外務・欧州問題省プレスリリース）】

16日、レシュチェニヤ駐スロバキア・ベラルーシ大使は、Youtubeに自身のビデオメッセージを投稿し、ベラルーシの反政府デモに対する連帯を表明するとともに、「ベラルーシ国民に対する拷問や暴力に衝撃を受けている」と述べた。在外ベラルーシ大使が反政府デモへの連帯を公式に表明したのは初めてのことである。18日、レシュチェニヤ大使は辞意を表明した。

24日、コルチョク・スロバキア外務・欧州問題相は、辞任するレシュチェニヤ大使と会談を行った。コルチョク外相は、「スロバキアの立場は明確である。我々は、暴力の即時停止、基本的人権及び自由の尊重、国際基準を遵守した大統領選挙の再実施、ベラルーシ当局と社会との間の政治的対話の即時開始に賛成している」と述べた。

【首相府プレスリリース（19日付）】

スロバキア政府は、ベラルーシ当局に対し、暴力の即時停止、基本的人権の遵守、暴力に関与した人物に対する公正な捜査及び処罰、平和的なデモへの参加者の即時釈放、迅速な再選挙の実施に向けた市民社会との対話の主導を要請する。EU加盟国であるスロバキアは、ベラルーシ市民のデモに対する暴力に関与した個人に対象を限定した措置を講じることを支持する。

◆ベルギーにおける警察官によるスロバキア人暴行致死疑惑

【22日付スメ紙及びプラウダ紙】

2018年2月、スロバキア人のホヴァネツ氏は、ベルギーのシャルルロワ空港で搭乗券を見せずに航空機に搭乗し、機内で暴れたため、ベルギー警察によって留置所に連行された。同氏は留置所で、壁に自分の頭を打ちつける等して暴れた後に昏睡状態に陥り、病院に搬送されたが心臓発作によって死亡した。

数日前、ベルギーのHet Laatste Nieuw紙は、留置所におけるホヴァネツ氏に対する警察官の対応を撮影した動画を公開した。同動画によると、5名の警察官がホヴァネツ氏の胸部を16分間に渡り押さえつけ、1名の女性警察官がナ

チス式敬礼を行っていた。ドゥ＝クレム・ベルギー内務相は、ホヴァネツ氏に対する警察官の対応は受け入れることができないとし、本件に対する迅速な捜査を命じている。

チャプトヴァー・スロバキア大統領は、「警察による市民への暴行は受け入れることができない」と述べるとともに、「コルチョク外相による本件への対応を信頼しているが、必要があれば大統領としての立場から行動を起こすつもりである」と述べた。

【ブラウダ紙（9月3日付）】

9月2日、国会は、2018年にベルギーで発生した警察官によるスロバキア人ホヴァネツ氏の暴行致死疑惑に関する決議を全会一致で採択した。同決議では、スロバキア政府がベルギー政府に対し、同疑惑の徹底した調査及び責任者に対する刑事・懲戒手続きを要請するよう求められている。

【外務・欧州問題省プレスリリース（9月3日付）】

9月3日、コルチョク・スロバキア外務・欧州問題相は、在ウィーンのGhislain D' Hoop駐スロバキア・ベルギー大使を召致し、9月2日に国会で採択されたベルギーにおけるスロバキア人死亡事案に関する決議の内容を伝達した。コルチョク外相は、「スロバキア国会がこれほど緊迫した決議を採択するのは稀である。スロバキアは、迅速かつ透明性のある捜査を期待している」と述べた。

社会

◆スロバキアの人口動態予測（5日付Dennik N紙電子版）

医学雑誌ランセットは、2100年にスロバキアの人口が250万人まで減少するとの予測を発表した。これに対し、コメニウス大学自然科学学部の人口学者であるブレハ氏は、国連や人口移民研究所（CEPAM）の予測によると2100年のスロバキアの人口が380万人までしか減少しない旨指摘するとともに、ランセット誌の予測に否定的な見解を示した。欧州統計局は、2100年のスロバキアの人口を430万人と予測している。

スロバキアの人口は、早ければ2060年以降に減少傾向に向かうと予測されている。

経済

◆最新の主要経済指標（スロバキア統計局等）

スロバキア統計局の速報値によると、2020年第2四半期のスロバキアのGDPは、前年同期比で12.1%減少した（スロバキア独立以降で最大の減少率）。他方で、第2四半期の雇用率は、前年同期比で2.6%の減少に留ま

った。郵便銀行のグラソヴァー氏は、雇用率の減少が抑制された理由として、雇用維持に向けた政府の支援策及び規制措置の緩和を挙げている。

スロバキア統計局によると、6月の鉱工業生産額は前年同期比で8.5%減少した。鉱工業生産額は、4月（前年同期比で42%下落）から比べると大きく改善されたものの、2021年下半期まではパンデミック前の水準に回復しないと予測されている。2020年上半期の鉱工業生産額は前年同期比で17.7%減少し、中でも自動車生産額は同31.3%減少した。

2020年上半期の輸出額は前年同期比で17%減少したものの、6月の輸出額が前年同期比で1%の減少に留まった。6月の貿易黒字額は、自動車輸出の回復と輸入額の減少により、過去最高の7億1000万ユーロに達した。

労働局によると、7月の失業率（登録ベース）は7.65%であり、前年同期比で2.68%上昇したものの、前月比では0.25%減少した。7月の雇用者数は1万5000人以上であり、パンデミック前数か月の水準を上回った。7月の求人数は6万9500人であり、前月の求人数（6万8000人）を上回った。失業率が前月比で改善された要因として、政府による規制緩和及び外需の上昇が挙げられている。他方で、専門家は、2020年の失業率は8.6%に達すると予測しており、スロバキア経済がパンデミック前の水準に回復するのは2022年初頭になると予測している。

◆独ポルシェ社による車体工場建設の検討（18日付プラウダ紙）

独フォルクスワーゲン（VW）傘下のポルシェは、2024年にホルナー・ストレダ（トレンチーン県）において、車体（自動車のボディー）工場を建設することを検討している。ポルシェは、2024年第1四半期に新工場の建設を開始し、2026年第4四半期に生産を開始する予定である。投資額は2億5000万ユーロと見積もられており、新工場では2040年までに1200名の新規雇用が創出される予定である。

昨年ポルシェは、生産の自動化に関する研究センターをホルナー・ストレダに建設する旨発表している。同センターは、2023年までに34名を雇用する予定である。

ポルシェは、ドゥブニツァ・ナド・ヴァーホム（トレンチーン県）に自動車部品工場を有しており、175名を雇用している。また、ブラチスラバにあるVWの自動車組立工場では、ポルシェの車種（カイエン）も生産されている。

◆7月の失業手当支給件数（18日付社会保険機関（SP）プレスリリース）

2020年7月の失業手当受給者数は、2004年以降最多となる6万90

20人（前月比4909人増加）であった。2019年7月の失業手当受給者数は、3万5507人であった。

◆政府による企業支援状況（21日付 Symsite）

スロバキア政府は、8月中旬までに、企業及び個人事業主へのパンデミック支援の一環で、計4億6500万ユーロを支給した。政府の支給額は、4月が1億7600万ユーロ（9万4000の企業及び個人事業主）、5月が1億4300万ユーロ（同7万5000）、6月が6300万ユーロ（同4万4000）であり、徐々に減少傾向にある。

自動車メーカーが多くの補助金を受け取っており、中でもフォルクスワーゲン（VW）がこれまでの4か月間で1730万ユーロを受給した。6月の受給額が100万ユーロを超えたのは、USスチール・コシツェ社のみ（330万ユーロを受給）であった。

（了）

スロバキア主要経済指標

(出典:スロバキア統計局)

